

【日 時】 令和5年1月23日（月）午後2時～午後4時

【場 所】 多治見市役所駅北庁舎4階第1、第2会議室

【参加者】 最終頁名簿のとおり

【内 容】

1 教育長挨拶

2 議題

(1) 事務局説明資料について

① 【資料1】第3回委員会からの変更点 について

(委員)	「子ども像実現のために」のイメージ図で、周りにある木々は多様性を意味するため、様々な種類の木があってよいのではないか。
(委員)	委員会での意見を取り入れてもらい、分かりやすい計画となっている。古川市長が人材は財産であると言われるように「人材」の「材」を「財」としていることが多治見市の良いところである。一人一人を大事にしていることがこの計画の文面にも表れている。
(委員)	施策4の「イ 個々の教育的ニーズに対応した環境整備」を「イ 特別支援教育における支援体制の充実」に変更した理由は何か。「個別最適化」は重要であるため、どこかに位置づけるとよい。
→ (事務局)	「イ 個々の教育的ニーズに対応した環境整備」と「ウ 個々の教育的ニーズに応じた支援」の違いが不明確であるため、「特別支援教育における支援体制の充実」に変更した。
→ (委員)	個々の教育的ニーズは、経済的な支援と日本語指導のみではないため、幅広い要素を含む部分がどこかに位置づけてあるとよい。

② 【資料2】第3次教育基本計画（案） について

●施策5 学びを支える教育環境の充実

(委員)	前回の資料と今回の資料を比べると、前回の資料にあった「施策の方向性」が「具体的な取組」にまとめられ、分かりやすいものとなった。また、前回の資料では「具体的な取組」に教員の研修が多く、負担になるのではと心配したが、今回の資料では教員のゆとりや笑顔という言葉が加えられ、教員を大事にする要素が盛り込まれている点が良い。
(委員)	「2 幼保小中一貫教育の推進」の「(1) 多治見市型幼保小中一貫教育の推進」に「幼児期から、学習習慣・運動習慣・生活習慣が身に付くよう」とあるが、「学習習慣」という記載について幼稚園・保育園の担当者はどのように考えるか。
→ (委員)	絵本を読んだりすることも大きく捉えると学習習慣の1つと考えることができるが「学習習慣」という言葉に違和感はある。
→ (委員)	「学習」ではなく「学び」、「意欲的な取組」「まなびにむかう好奇心・興味」等の言葉にしてはどうか。「学習」という言葉は、教科のイメージがある。幼稚園・保育園担当者とは相談し、事務局で検討を願う。
(委員)	「現状と課題」に、幼児期や非認知能力の重要性が記載され、今後多治見市の子ども達が

	個性豊かに育まれていく可能性を感じることができる。
(委員)	「施策5 学びを支える教育環境の充実」の1番目に「幼保小中一貫教育の推進」、2番目に「教職員の働き方改革の推進」と順番を入れ替えたほうがよいのではないか。教育基本計画としては、幼保小中一貫教育の内容が先ではないか。

## ●施策2 社会性と豊かな心を育む教育の推進

### 3.読書活動の充実

(委員)	前回の資料に比べて、計画の成果目標に客観的な指標が加えられてよい。
(委員)	計画の成果目標である「年間読書冊数」の小学校低学年をみると、現状と目標の値が同じである。低学年は既に読書量が多いということか。
→ (事務局)	低学年は読書量が多い。
→ (委員)	低学年は年間120冊読む児童が90%と高い結果である。理由は低学年用の本が短い話が多いからか。
→ (事務局)	短い話の本や絵本が多いことに加えて、授業時間で図書館に行く機会が多い。低学年は1日2冊貸出をできるようにし読書を推進している学校もある。一方、興味を持たない子や文章を読むことが苦手な子もいるため100%にはならない。
→ (委員)	現状と目標が同じ値でよいか。目標の値を少し上げてよいのではないか。
→ (委員)	関連して、「1.心の教育の充実」「2.キャリア教育の推進」の成果目標についても、5年間かけて施策を実施することを踏まえると、目標の値を少し上げてよいのではないか。学校現場は数値を上げると大変か。
→ (委員)	多少数値を上げてよい。
(委員)	計画の成果目標である「『本を読むことが好きか』の質問に対して『とても好き』と回答した割合」の目標が小学校と中学校で同じ値でよいか。令和3年度実施した多治見市学習意識調査の「本を読むことが好きか」の項目をみると「とても好き」「どちらかといえば好き」の各層とも小学校より中学校のほうが低い。「どちらかといえば好き」の層を「とても好き」になるよう進めるとしたら、小学校と中学校の目標を同じ値にすることに疑問がある。
→ (委員)	成果目標において、質問に対する回答を「とても好き」のみにして「どちらかといえば好き」を入れていない理由は何か。「とても好き」の割合を増やすことを重視しているのか。
→ (事務局)	様々な調査において1番目の「とても好き」という回答項目に焦点をあてている。施策を実施するにあたって効果があるのは2番目の「どちらかといえば好き」と3番目の「あまり好きでない」の層であり、4番目の「好きでない」層は何らかの特別な支援が必要である可能性がある。それを踏まえて、1番目の層に注目している。
→ (委員)	小中学校の目標値が同じ割合であることについてはどうか。
→ (事務局)	現状を考えると小中学校の目標値を同じ割合にすることは難しいため検討する。また、3月に開催する「子どもの読書活動推進委員会」で意見聴取する。
→ (委員)	小学校と中学校が現状と比較して同程度の伸び率で目標値を設定したほうがよい。
→ (委員)	「とても好き」のみに焦点をあてるのではなく、「どちらかといえば好き」を含めてよい

	と思う。子ども達の趣味嗜好も多様であることを考え、「あまり好きでない」を「どちらかといえば好き」の層にすることに焦点をあてると目標値にも余裕ができる。
→ (委員)	思春期の子どもにとって「とても好き」と回答することは心情的に難しいのではないか。
→ (委員)	「どちらかといえば好き」を含めると全体の底上げになる。

#### 4.郷土愛を醸成する教育の推進

(委員)	計画の成果目標の「土曜学習講座参加者」で現状は年間累計 400 人、目標は年間累計 700 人となっている。子どもの人数が減り、土日のクラブ活動の参加率向上を推進することを考えると、土曜学習講座参加者が 300 人も増えるのか。
→ (事務局)	現状は年間累計 400 人となっているが申し込みは多い。コロナ禍であるため、定員を半分程度にしている。コロナ禍以前は 650 人から 700 人の参加はあったため、それを見越した目標値となっている。

### ●施策1 体力・学力を高める教育・保育の推進

#### 1.運動の楽しさを感じる取組の充実

(委員)	具体的な取組の(1)に記載の「たじっこ CityCup」は、縄跳びの進級表や水泳の進級表のように個々の能力を高めていく指標を用いるものであるとよい。ネットで登録して学校間の競争になると現場は苦しい。
→ (事務局)	前回の資料にあった「チャレンジスポーツ」は県全体で取り組むものであるため、多治見市で何か取り組むことを考え「たじっこ CityCup」とした。子ども達が自ら休み時間等を利用してやってみようと思う取組にし、子ども達の励みになるような機会を提供する。
→ (委員)	県の「チャレンジスポーツ」の大縄跳びを学校で行っている。「チャレンジスポーツ」のように様々な競技の中で選択して実施できるとよい。
→ (事務局)	具体的な種目等は決まっていない。習慣向上推進委員会での意見を参考に詳細は決定していく予定である。
→ (委員)	今月の取組を決めるとか、休み時間にやるといった取組であってもよい。
→ (委員)	意欲を引き出すための取組にはなると思う。誰かと競い合うというよりは、自分の達成感を味わうことができるような取組であるとよい。得意、不得意があるなかで劣等感をもつことにならないよう工夫する必要がある。
→ (委員)	単位は学校か学級か個人になるか。
→ (事務局)	種目により変わる。学校や学級や個人になる場合もあればグループ単位で行うことも検討していく。

#### 2.主体的・対話的で深い学びの実現

(委員)	具体的な取組(1)に記載の「テンポ・スピード・タイミング」は「スピード・リズム・タイミング」ではないか。
→ (事務局)	確認する。
(委員)	計画の成果目標で『教科の勉強は好きですか』の質問で『好き』と回答した割合』の目

→ (事務局)	標値が国語と算数・数学で同じ40.0%となっているのはよいか。 教科ごとの目標値がふさわしいか再度検討する。
---------	---

#### 4.食育による健やかな心身の育成

(委員)	多治見市は食育に力を入れていると思うが給食は美味しいか。食育を進める上で美味しいことも大切である。
→ (事務局)	多治見市はだしからとる等、子ども達に一番おいしく食べてもらうことができる方法で作っている。コロッケも手作りでカレーはカレールーを使わず作っている。
→ (委員)	試食会にいても美味しいと評判である。食材選びも厳選して行っている。

### ●施策3 家庭、学校・園、地域の連携の推進

#### 1.親育ち支援事業の充実

(委員)	現状と課題に「子育てに不安を感じる女性は8割近くとなっている」とあるが性別を区別しての調査結果であるか。
→ (委員)	性別を分けての調査結果である。
→ (委員)	女性ではなく保護者としたほうがよい。
(委員)	成果目標にアンケート結果等の質的評価を加え、量と質がバランスよく評価できるとよい。
(委員)	成果目標で「各学校のPTA家庭教育学級を充実させるための市のPTA家庭教育学級の開催」を3回から4回にするとあるが、市のPTA家庭教育委員の負担とならないか。
→ (委員)	家庭教育委員は、市PTA連合会の家庭教育委員会に参加し、各学校の家庭教育学級も開催することになるため、現状のまま3回のほうがよい。4回にした理由は何か。
→ (事務局)	保護者同志の情報交流を進め、各学校の家庭教育学級を充実させるため、市PTA連合会の家庭教育委員会を3回から4回にした。市PTA連合会の家庭教育委員の負担になることは本意でないため、内容を充実させる方向で再度検討する。
→ (委員)	参加しなくても情報を得ることができるような取組も行い、結果として子育てに不安を感じる保護者の率が減るとよい。

#### 3.青少年健全育成事業の推進

(委員)	成果目標の「青少年まちづくり市民会議が行う活動にスタッフとして参加した児童生徒の割合」で、スタッフの募集は年度当初に行い、1年を通して活動してもらうため、スタッフを増やすことは難しいのではないか。スタッフとして参加した後の満足度といった指標でもよいのではないか。
→ (事務局)	年度当初に1年間活動してもらうスタッフもいるが、行事ごとにスタッフを募集する場合もある。青少年まちづくり市民会議と協力し、多くの子ども達がスタッフとして参加できる機会を提供する。
→ (委員)	1年間通してのスタッフもいるが、お祭りのスタッフ等、各行事で募集するスタッフもいる。子ども達がスタッフとして参加する機会を増やすことが大事である。

## ●施策4 多様な課題に応じた支援の推進

### 2.特別支援教育における支援体制の充実

(委員)	施策2の「主体的・対話的で深い学びの実現」に「個別最適な学び」が位置づけられており、施策4の「多様な課題に応じた支援の推進」で学び以外の学校生活の多様なニーズに対する施策が位置づけられていると理解した。 読み書きが難しい児童生徒がタブレット端末を利用して授業に参加する取組はどこに入るか分かればより整理される。
→(事務局)	読み書きが難しい児童生徒の支援は、施策4の2「特別支援教育における支援体制の充実」の「(5)ユニバーサルデザインの授業づくりの推進」で対応する。
(委員)	計画の成果目標で「特別支援学級所属の児童生徒及び通級指導教室の児童生徒のスマイルブックの所持率」の目標値が100%となっている。保護者の協力も必要であるため、難しいのではないか。
→(事務局)	保護者の理解も必要であるため100%にすることは難しいと思う。継続的な支援をするためにスマイルブックは必要であるため、期待値も含めて目標値を100%としている。

### 3.個々の教育的ニーズに応じた支援

(委員)	計画の成果目標の「日本語指導が必要な児童生徒のうち『学校が楽しいと思いますか』のアンケートで『とてもそう思う』『そう思う』と答えた人数」とある。日本語指導が必要な児童生徒は全員で何人いるか。
→(事務局)	50人弱である。全員で何人いるかの母数も含めて、現状の数値を記載する。

## 3 質疑・意見交換

なし

## 4 その他

- ・ 今後のスケジュール

多治見市教育基本計画策定市民委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
春日 晃章	岐阜大学教育学部教授	副委員長
大嶽 和好	教育委員	
加知 玲子	養正小学校附属幼稚園 園長	
木下 貴子	教育委員	
鈴木 亜紀子	教育委員	
中澤 香代	元教育委員	
西尾 伸一郎	脇之島小学校 校長	
藤浪 貴大	子ども支援課 課長代理	
水野 雅樹	教育委員	
森井 直美	多治見市PTA副会長	
山田 美穂	公募	